

教育環境の変化と対応

水野 貞幸 (みどり21)



幼稚園児の小学生との登園や雨天の送り迎え、夏休みのラジオ体操など昔から慣れ親しんだ習慣が変わった。子どもの健全な成長への影響の観点からの質問。

Q 変化が菊川市総合教育会議等で、議題や話題になるか。

A 園や学校、保護者において検討を行う事柄で、施設訪問時に話題に出たが、会議で同意を得るものではない。

Q 風潮や意識の変化(地区・地域によって違う)を専門的に研究・議論しているか。

A 価値観等の多様化や学習内容の増加で子どもが忙しくなった。大学教授の助言を受けて見直し、研究や議論を続けている。

Q 菊川市の家庭教育推進の特徴は。

A 教育は学校・家庭・地域の連携が効果を高め、支援員が取組んでいる。「学びの庭構想」で、地域に合った取組みを議論していく。

賑わいと活力を生む都市づくり

竹内 敏行 (みどり21)



都市づくりの基本理念である、賑わいと活力を生み出す都市づくりの現在と未来への取組みについて聞いた。

Q 東館を核とした賑わいの好循環創出事業の内容とありたい姿は。

A 事業内容は、賑わいづくり研究会の開催、活動の展開方法を学ぶ人材育成講座や高校生や大学生など若年層の育成セミナーの開催など。ありたい姿は、市民や団体のアイデアと活動により東館を中心に人が集い、まちの賑わいを生み出していくことだと考えている。

Q 下平川周辺と東名インター周辺の拠点づくりの取組みは。

A 下平川周辺地区は、引き続き周辺からのアクセス向上を図るため、幹線道路整備を図る。東名インター周辺については、未利用地等への店舗、住宅等の誘導を図っていく。賑わいづくりは、東館での事例をモデルとして、2つの拠

点を含めた様々な地域に広めていきたい。

Q 地域振興基金の活用方法について。

A この基金は、市民の連携の強化、または、地域振興に要する経費の財源に充てるため今年4月に設置したものである。財源とする合併特例債の償還が終わった額の範囲内で原資を取崩し、新市まちづくり計画に掲げた事業を効果的に実施していく。



Q 幼児教育・保育は人数的なニーズ対応が中心。中身・質で特筆されることは。

A 保育所・認定こども園・幼稚園等が連携、情報共有の体制づくりを推進、一人ひとりの個性や段階に応じた指導の充実。認可施設の合同研修で資質・能力の向上を図っている。

Q 小中一貫教育の地域との連携で、戸惑いや課題等は何か。

A 昨年度より、岳洋学舎で「学舎運営協議会」を開催、現状の課題や問題点を踏まえながら活発な意見交換が行われている。委員の提案から地域と協働で行う放課後学習会などの取組みが始まった。

他に「振り込め詐欺の根絶」について質問しました。



小笠高校「小さな収穫祭」